

著者インタビュー



フェイスホールディングス 代表取締役社長

小倉 広さん

1965年新潟県生まれ。青山学院大学卒業後、㈱リクルート入社。企画室、編集部を経て組織人事コンサルティング室課長。2003年、現㈱フェイスホールディングス代表取締役就任。リーダーシップ開発と理念浸透に特化したコンサルティングと教育研修を提供している。著書に『35歳からの生き方の教科書』（アスコム）など。

課長のスキル

どんな会社でも通用する
70の技



『あたりまえだけどなかなかできない33歳からのルール』の著者が、自身の経験にもとに考案した、チームマネジメントに役立つ70のビジネススキルを解説する。

2010年4月
徳間書店
本体 1,400円+税

本書のテーマは「スキル」ですね

「心・技・体」という言葉があります。「心」は姿勢や意欲、「技」はスキル、「体」は習慣や行動と考えます。私はこれまで、「心」をテーマに本を書いてきました。しかし「心」だけが変わっても「技」と「体」が元のまま変わらないということがよくあります。するとせっかく変わった「心」までもが、元の低い志へと逆戻りしてしまうのです。

リーダーにとって最も重要なのは「心」であることに変わりはありません。しかし、その実現と定着のためには、スキル＝「技」とその習慣化である「体」についても改めなくてはならない。「心」と「技」と「体」は常につながり一貫しているのです。

例えば私は、研修を受講していただいたリーダーの皆さんに「定期的に部下との会話や面談、ミーティングをしてください」とお願いします。これはまさに習慣としての「体」です。しかし、忙しいからムリ、と言うリーダーもいます。ですが彼らは「俺は部下のことを考えているよ」とも言います。これは嘘をついているのではなく、「心」と「体」が矛盾していることに気がついていないだけなのです。そしてこの矛盾を解消するには、「体」を変えるために必要な「技」＝スキルを身につけることが重要になってくるのです。

他のスキル本との違いは？

従来のスキル本は、例えば「ファシリテーション」など、単独のスキ

ルについて説明するだけのものが多く、スキルを現実のマネジメントへ活用するために不可欠な、「異なるスキル同士の関連性」については論じられていませんでした。

そこで本書では、日常の場面を例にとり、さまざまなスキルの活用法を統一的に説明しています。

悩めるリーダーの皆さんに一言

私は、善きリーダーになるということは、幸せに生きることと限りなく同義だと思っています。リーダーの仕事はしんどいですが、それを乗り越えたときには、その分だけ幸せになれるのです。だからみなさんも、ぜひ、善きリーダーとなるために、部下と向き合ってあげてください。その方法が「技」＝スキルなのです。